

省に於いても今日知られたる鐵鑛層は極めて微々たるものに過ぎず、東部シベリアに於ける鑛量は前表に示せる如く千四百萬噸にしてイエニセイスク、イルクツク兩省ヤクーツク州、外バイカル州を包括す、極東沿岸は相當含鐵層を有し前表示せる如く鐵鑛量六百萬噸と推定せらる、要するにアジアロシアに於ける既知の鑛量はタルキスタンを除き前表に示せる貳千七百萬噸と見れば大差なからむ。

(ロ) 英領印度に於ける鐵鑛分布

印度の鐵鑛は生成出現の狀態より

- 1 半島若しくはヒマラヤの古代岩石内に出現するもの
- 2 磁鐵鑛の細粒となりて花崗岩若しくは片岩内に傳播せるもの
- 3 ベンガル夾炭聯の粘土鐵鑛
- 4 Lateritic ore.

の四種になれり此内近時工業の點より觀察して尤も重要なるは第一の(A)古代岩石内に胚胎せるものにして此種の鐵鑛の主なる分布地は

I. Madras ^{マドラス} 州に於て

Salen:

山脈の絶壁をなせるところに鐵鑛露頭出現し鑛床は厚さ五十尺乃至百尺をなせる個所あり。

Nilgiris:

鐵鑛の多量は Nilgiris Hill の高原に片麻岩内に赤鐵鑛の帯となりて出現せり、尤も重大なる鐵鑛は Kotagiri 附近にあるものなり。

49 Mysore State:

50 本州に於て現在注目に値するは下の二地域にあるものなり。

Malyalli Area :

此地域には品位良好の鐵鑛多量に存在すると云はるれと探究の結果其存在を確むることは不成功に終れり Sivasamudram 峭壁の西十二三丁の地點に磁鐵鑛に富める赤鐵鑛脈あり平均廣さ一尺を有す良鑛の分量は蓋し微々たるものにて恐らく一千噸以下なるへし其他磁鐵鑛を含める石英岩の數脈あり要するに此地域より百萬噸を得ることは容易なるへし。

Bababudan Area :

此地域にある連脈の上部は鐵鑛の連鎖を形成し其厚さ數百尺に及へとも其性質は上部下部互に相違せり品位良好の鐵鑛は厚さ三四尺の表面地殻を形成し鑛量二千五百萬噸を下らざるへし鐵含有量は 65 乃至 85 パーセントとす。

Kadapah 及 Kannil :

鐵鑛は Kadapah 系の岩石に多量に出現し Kannil に於ては赤鐵鑛塊の殆ど純粹のものか Ganigal 連嶺の北方の傾斜に存在せり。

Nellore :

二個の赤鐵鑛床あり品位良き鐵鑛をも含有すれとも概して品位一定せず。

Nizagapatam :

赤鐵鑛の多量を有せる鑛脈存在す。

II. Bengal 州

Orissa :

Orissa の Mourbhaiy State の鐵鑛は尤も能く踏査せられ此州には少くも交通至便の地に良鑛の露頭

十二以上ありて鐵鑛は赤鐵鑛となりて出現せり。

Gurumaisihini Hill に於ては鐵鑛は延長七千呎五千五百呎及び三千呎幅 300 より 700 呎に至る三個の平行せる且つ分離せる鑛脈に出現し尙此外三個の個々の不規則の形をなせる塊状となりて出現せるものあり鐵鑛は約一千萬平方呎の面積上に擴大すれとも其深さは現今に於て明ならず。

鐵含有量平均 61.85 ~ 64.33 パーセントとす。

Okampad Hill は Gurumaisihini の南々西十二哩の地點にあり鐵鑛は表面積三十萬平方呎に擴大せり含有鐵量は平均 67.65 パーセントとす。

Badampahar Hill は Okampad の南西八哩半の地點にありて鐵鑛床は延長 3000 呎幅 500 呎を有せり。

III. Central (中央州)

Rajpur :

鐵鑛は著しき小丘を形成して此中尤も重要なるものは Dhulee 及び Rajhara Hill を包含せる山脊にして延長約二十哩に及び地平面上四百呎の高さに達せる個所あり鑛石は石英鐵鑛片岩 (Quartz iron ore Schist) なれとも所々に比較的純粹の赤鐵鑛の厚塊存在せり概して鐵分 67.5 パーセントを含有し鑛量は約二百五十萬噸と計上せらる。

Chanda :

此地方には鐵鑛の多量存在せり Lohara Hill は長さ 3 哩幅二百ヤード高さ 100 乃至 120 呎にして殆ど緻密結晶の赤鐵鑛塊よりなれり。

Pipalgaon に於ては良質の赤鐵鑛塊出現し Rohapur には所々四五十呎の廣さを有せる褐鐵鑛脈存在せり Lohara に於ける鐵鑛は約 69.21 パーセントの鐵を含有し Pipalgaon の鐵鑛は 71.05 パーセントの鐵を有し燐及硫黄は僅に痕跡のみ。

Jabalpur の重要なる鐵鑛は Dharwar 頁岩に於て雲母赤鐵鑛の帶として出現せり以前は廣大の量あるものと想像せられしか探究の結果稼行し得へき程の鑛床は殆ど皆無なることを證せり。

IV. Central India 及ひ Rāgputana

鐵鑛は以前は Gwalior 及ひ Alwar に於て廣く稼行せられたるか現今は夫等の鑛山は永く放棄せられて單に開鑿の跡残れるのみ。

V. Himaraya

鐵鑛は Outer Himaraya に於て數ヶ所に出現するも現在は全く稼行せられず鑛床の面積及ひ價值も精確ならず鐵鑛は一般に雲母赤鐵鑛にして磁鐵鑛を有せり。

B. 花崗岩又は片岩内に傳播せる鐵鑛

Madras 州に於て Salem, Mysore 及ひ Hyderabad 等其他 Assam に於て以前結晶岩石内に傳播せる磁鐵鑛砂を製鐵に用ゐしか之等は近代の工業に對しては一顧の價もなく其分量も無論測定し得ず。

C. ベンガン夾炭聯の粘土鐵鑛

Ranigaly 煤田の粘土鐵鑛 (Clay iron stone) は事實印度に於て商業上製鐵に用ひたる唯一の鑛石にして Ranigaly 及ひ Parkar の石炭層の間に介在せる頁岩炭に出現す之等頁岩は廣大なる地域を占有し其露頭は數哩の距離追跡し得へく厚さは 1400 呎と計上さる鐵鑛は頂上及麓附近に多量に存し扁豆狀の塊又は帶狀をなし出現す。

鐵含有量は平均 3.43 パーセント。

近來前掲の頁岩より得られたる鐵鑛は殆ど消費し盡されたる傾ありて Kalimata 附近より主として鐵鑛を採掘せり。

Singbhum district に於て Kalimati 附近には二鑛床ありて Turandih 及び Hakigora に出現す。
 1906 年及 1907 年に於て之等二鑛床より得られたる鑛量は

	1906	1907
Turandih area	8285 噸	9731 噸
Hakigora "	540	1375
合計	8825	11106

西方の Palaman に於て鐵鑛は Barakar 界の砂岩を介在せる含鐵頁岩の帯に出現せり頁岩は約二百呎の厚さを有し場所によりては延長二三哩に及び又四哩平方の地域に擴大せることあり。

鐵鑛は鑛床の厚さの約 10 パーセントに達し炭酸鐵鑛、黒帶褐鐵鑛及赤鐵鑛にして鐵分約 33.7 乃至 59.3 パーセントを含有す。

D. Lateritic Ore.

以前土人に依り稼行せられたる主なる分布地は

I. マドラス州 (Madras Presidency.)

Malabar.

Salem.

II. ベンガル州 (Bengal Presidency.)

Birbhum.

Orissa Outback 於て以前稼行せられたり。

Palaman.

III. ボンブー州 (Bombay Presidency.)

本州には Laterite は廣く散在して以前土人に依り稼行せられたるか現今は絶滅せり。

IV バルマ (Burma.)

Pegu 等とす。

(ハ) 日本に於ける鐵鑛分布

本邦に於ける鐵鑛産地は其數頗る多くして百ヶ所以上に達し鑛石は磁鐵鑛赤鐵鑛雲母鐵鑛を含む褐鐵鑛の三種に大別せらる。

鑛量は現存又は確定及び推定の二種に分ち其大要を擧ぐれば下の如し。

	確定鑛量	推定鑛量
磁鐵鑛	四〇〇〇〇〇〇〇屯	相當料
赤鐵鑛	一〇〇〇〇〇〇〇	同
褐鐵鑛	一〇〇〇〇〇〇〇	同

今後各山の探鑛進捗するに隨ひ鑛量は更に増加するものあるは疑なかるへし、尙此外に製鐵原料たるへき砂鐵及鑛滓を多産す。

鐵鑛床の分布、數多の鑛産地中從來著明のもののみにつき左に其概要を略記すへし。

鑛産地名

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 陸中釜石 | 7 同 上閉伊郡達曹部村 |
| 2 同 仙人 | 8 同 下閉伊郡田老村 |
| 3 同 栗木又は人首 | 9 同 同 小本村 |
| 4 同 盛岡附近 | 10 陸奥東岳 |
| 5 同 下閉伊郡老木、花原市、上根市 | 11 羽後北秋田郡大葛村 |
| 6 同 重茂、船越 | 12 同 鳥海山附近 |
| | 13 羽前西村山郡 |